



愛川ふれあいの村「紅葉まつり」体験ブース実施報告書

KHA LS 委員会 委員長：本田義昭 Ob：大石進

1 目的

紅葉まつりに来所した子どもたちに、ボールを的にあてる体験を通して、ゴールに向かってシュートをするハンドボールの楽しさに触れさせる。同時にハンドボール競技とその魅力を広く知ってもらい、親子へのPR活動とする。

2 日時 2024年11月10日(日) 10:00~14:30

3 内容 的あて体験ブース

ゴールとボールを用意して子どもたちが投げ入れる。的を用意、またはGKが入る。

4 場所 神奈川県立愛川ふれあいの村 〒243-0307 神奈川県愛甲郡愛川町半原 3390

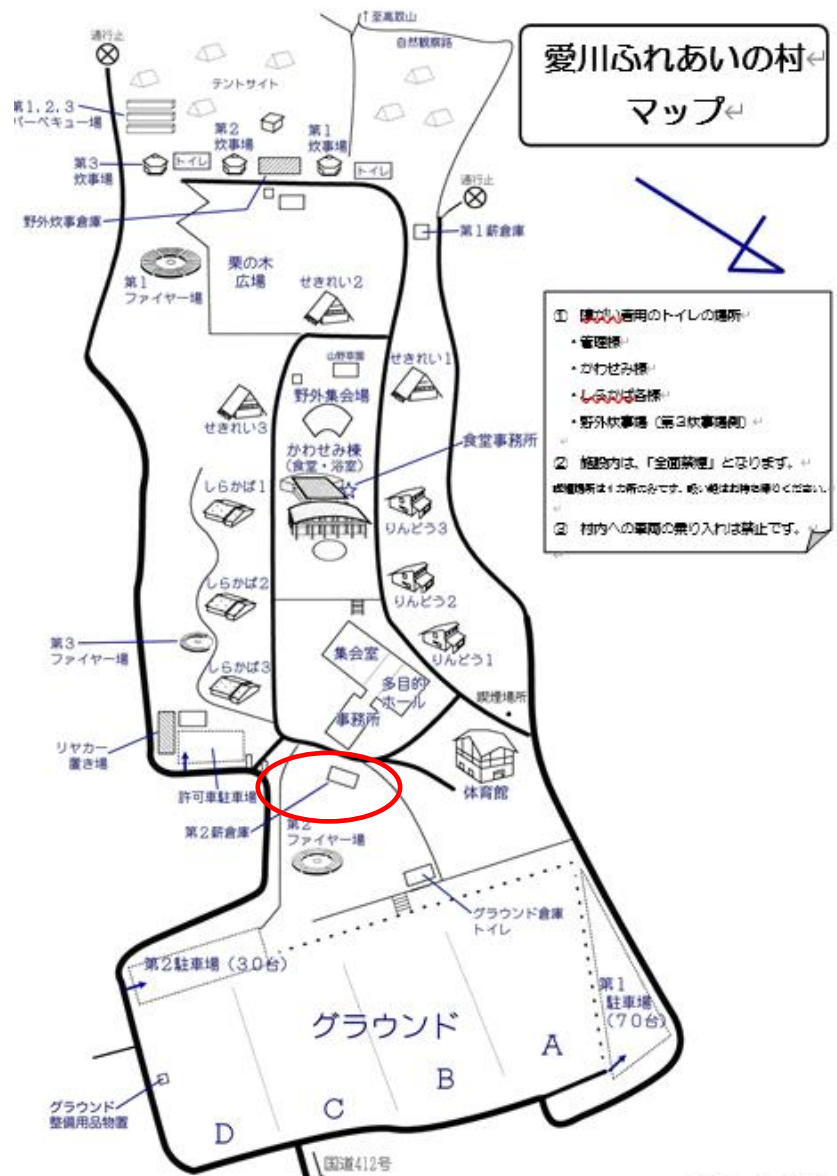
[愛川ふれあいの村 \(fureai-aikawa.com\)](http://fureai-aikawa.com) 電話 046-281-1611



QUICKPLAY.



2.4m×1.8m ストリート公式サイズ



5 準備物品

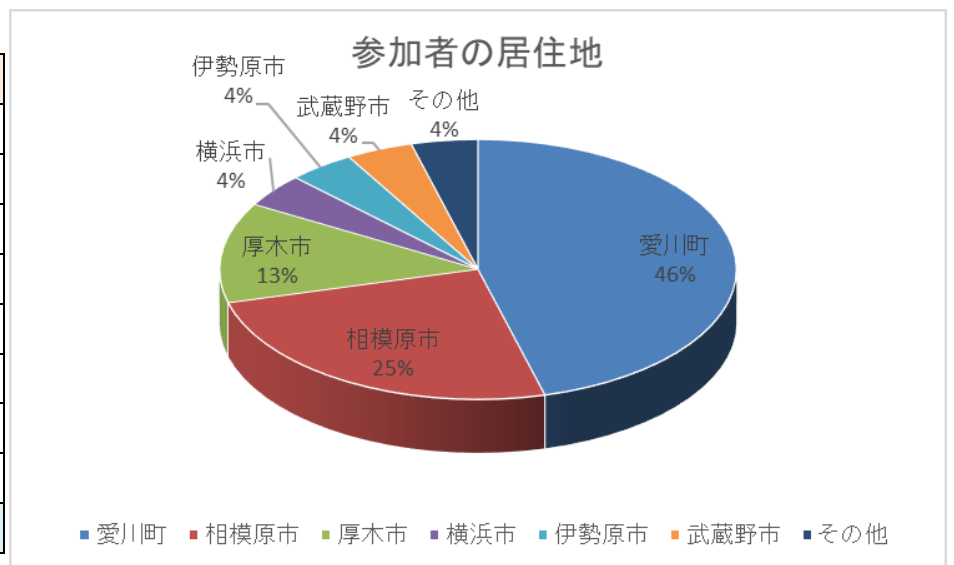
簡易ゴール（1） ストリートハンドボール（10） ボールを入れるバッグ（1）
 幼児用簡易ゴール（1）と小さいボール（5）
 的にする風船（2） 空のペットボトル（2） 紐（1m）
 マーカー（小10） カラーコーン（小5）
 受付用机（2） イス（5） パラソル（1） ブルーシート（1）
 受付名簿（名前・市町村程度：参加人数を把握）
 掲示物・・・ハンドボール協会、受付、競技の資料

6 スタッフ 本田義昭、稲葉由香、大石進、園田有理、中島桃子

*園田と中島は、桐蔭横浜大学出身の地元小学校教員

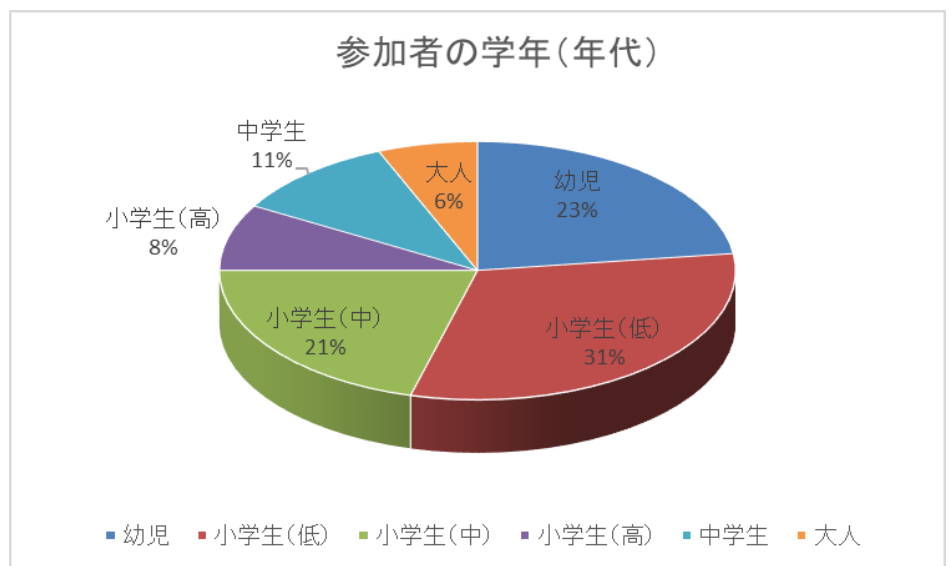
7 参加者 48名

NO	市区町村	人数
1	愛川町	22
2	相模原市	12
3	厚木市	6
4	横浜市都筑区	2
5	伊勢原市	2
6	武蔵野市	2
7	小田原市	1
8	大田区	1
	計	48



参加者の居住地は、地元の愛川町が最も多く22名（45.8%）、続いて相模原市12名（25.0%）、厚木市6名（12.5%）という順で多かった。

学年（年代）	人数
幼児	11
小学生（低）	15
小学生（中）	10
小学生（高）	4
中学生	5
大人（30代）	3
計	48



参加者の学年（年代）は、小学生（低学年）が最も多く15名（31.3%）だった。幼児、小学生低学年、中学年と合わせると75%を占めた。また、男女別の正確な記録は取らなかったが、男子がほとんどで、女子は5名程度（約10%）だった。

8 概要

愛川ふれあいの村主催の「紅葉まつり」は、コロナ禍を経て昨年度から復活したイベントである。当日の天候は、朝から曇りで、途中雨がパラパラと降る場面があった。しかしながら何とか終了まで開設でき、多くの子どもたちが参加し、楽しんでいた。

受付名簿では、記録として48人が参加しているが、ステージ発表や他のブース等を見た後、何度も来る子どももいて、実際には延べ60人程度が参加したのではないかと思われる。愛川ふれあいの村は、全体で約850名の来場者があったと発表している。

最初は、ゴールの四隅の風船とペットボトルを的にして「ボールを投げて当ててみよう。」と促していたが、そのうちGKをやってみみたい子どもが現れ、シュートを打つ人とGK対決という形で、勝手に楽しむようになった。さらにジャンプシュートや一回転してシュートなど、想像力豊かな子どもたちも見る事ができた。また、保護者も入り、子どもと一緒に楽しむなど、微笑ましい場面もあり、良い企画となった。幼児用の小さなゴールも好評であった。

小学校低学年までは、利き手と同じ側の足を前に出して投げる子どもが多い（特に女子）。ゴールに正対して、体のバランスを取りながら投げるためと言われている。しかし、少し教えると、利き手と反対の手を前に出し、腰をゴールに向け、体重移動を使って力強くボールを投げられるようになる。

今回の参加者でも、どんどん上手くなってスピードのあるボールが投げられるようになった子どもがいた。

中学生の中には、ハンドボール未経験だが、素晴らしいジャンプシュートを打つ子もいた。子ども時代のボールを使った運動（遊び）がいかに重要かを改めて考えさせられた。



【参考】日本スポーツ協会 アクティブ・チャイルド・プログラムより

9 今後の課題

今回の会場は、芝生ということで、寝転がったり、回転してみたりすることが容易で、子どもたちは、色々チャレンジしていた。少し広くスペースをもらえれば、ストリートハンドボールも充分可能である。ある保護者から「将来ハンドボールをやりたいと子どもが言ったらどうしましょう。」と聞かれたので、LS委員会の問合せ先を教えたが、県内のチームなどを直ぐに回答できるような資料があると良い。

ボールを捕る、投げる、何かに当てるといった行動は、子どもたちにとって、楽しいことであり、こうした企画は魅力があると思われる。あと、参加者に何かお土産的な物（缶バッジ等）が配布できると良いと思った。

2024. 11. 10 愛川ふれあいの村 紅葉まつり 的当て体験



